

群 教 セ	H01 - 02
	平18.234集

相手の思いに気づき、自分の気持ちや考えを 言葉で表現する幼児の育成

— 落ち着いて物事を考えることのできる言葉掛けの工夫 —

特別研修員 澤野 和子 (桐生市立北幼稚園)

《研究の概要》

本研究は、落ち着いて物事を考えることのできる言葉掛けの工夫をすることで、相手の思いに気づき、自分の気持ちや考えを言葉で表現する幼児を育成しようとするものである。具体的には、幼児の発達の時期や実態に応じて相手の考えを伝えたり、遊びの楽しさを知らせたり、目的意識を知らせたりするなどの言葉掛けの工夫をしていくことで、幼児の変容を明らかにしたものである。

○ はじめに

幼児期は、自我が芽生え他者の存在を意識し、かかわりを求め始める時期である。幼児は、大人や友達とのかかわりの中で、感動的な体験、感情的な体験など、様々な体験を豊富にもち、自分の気持ちや考えを自分なりに話したり、相手の話を聞き、伝え合う喜びを味わったりする。

本学級の実態から、自分の気持ちや考えを通そうと強い口調で話したり、相手の批判をしたりする幼児、思いが通らなると手が出る幼児、自分の気持ちや考えが言葉で表現できずに、不本意ながら友達の考えに従ってしまう幼児がいたりする。こういう幼児は、自分の気持ちや行動が落ち着かず、物事をしっかりと考えることができないのだととらえられる。気持ちや行動が落ち着くと相手の思いに気づき、話を聞こうとしたり、思いを分かろうとしたりする。そして、友達とやりとりをする中で、自分の気持ちや考えを整理する力が身に付いていくと考える。また、落ち着いて物事を考えることにより、目的意識や思考力が働いたり、友達と話し合っって遊びを作り上げていくという協同での活動を進められるようになったりする。そこで、落ち着いて物事を考えることのできる言葉掛けを工夫していけば、相手の思いに気づき、自分の気持ちや考えを言葉で表現する幼児が育成できると考えた。

I 研究の概要

1 基本的な考え方

(1) 相手の思いに気づき、自分の気持ちや考えを言葉で表現する幼児とは

ここでは相手の思いを、気持ち、考え、願い、要求など、心の状態ととらえた。

幼児は、大人や友達とのかかわりの中で、経験したこと、見たこと、聞いたこと、考えたことなどを、言葉で表し、伝えるようになる。しだいに、相手に親しみをもつようになると、相手の表情や言葉、態度などから相手の思いに気づき、話を聞くようになり、かかわりが深まっていく。このような過程をたどる幼児を、相手の思いに気づき、自分の気持ちや考えを言葉で表現する幼児ととらえた。具体的な姿を次にあげる。

- 自分の気持ちや考えを出したり、相手の思いを聞いたりする幼児
 - ・ 思ったことや考えたことを、先生や友達に伝えようとする。
 - ・ 相手の思いを聞こうとするが、自分の気持ちや考えを主張し、いざこざになったり友達に非難されたりするようになる。
- 友達関係が安定し、思いを出し合いながら自分たちで遊びを進めようとする幼児
 - ・ 自分の思ったことを、筋道立てて話そうとする。
 - ・ 相手の表情や態度や言葉を理解しようとする。
 - ・ 相手の話を関心をもって聞こうとする。

- ・ いろいろな友達と一緒に活動する中で、自分の考えを伝えようとしたり、相手の考えを受け入れようとしたりする。
- 友達と一緒に目的をもって遊びを進めていく幼児
- ・ 互いの考え方の違いに気付くようになる。
 - ・ 互いの考えを取り入れて遊びを楽しくしようとする。
 - ・ 自分たちの遊びたいイメージに合わせて、相談しながら遊びを進めようとする。

(2) 落ち着いて物事を考えることのできる言葉掛けの工夫とは

幼児が落ち着いているときの具体的な姿をあげる。

- ・ 口調や表情が穏やかである。
- ・ 一つの遊びにじっくり取り組む。
- ・ 相手の話に対して、相手の顔を見て相づちやうなずきを示す。

落ち着いて物事を考えるとは、次のようにとらえた。

気持ちが不安定な状態では、一方的に自分の思いを表現するだけで、相手の思いを考える余裕はない。気持ちが安定した状態のとき、それぞれの気持ちや考えを言葉で伝え合うことができると考える。

そこで、落ち着いて物事を考えることのできる言葉掛けの工夫としては、次のようにとらえた。

- 自分の気持ちや考えを出したり、相手の思いと感情をぶつかり合わせたりする時期
- ・ 悔しい気持ちを受け止めると共に、気持ちの切り替えができるような言葉掛け
 - ・ 安心して話すことができるよう、うなずいたり、相づちを打ったり、言葉を繰り返したり、言葉を補ったりする。また、感情が高ぶっているときには、落ち着いて話ができるよう呼吸を整えさせるような言葉掛け
- 友達関係が安定し、思いを出し合いながら自分たちで遊びを進めるようにする時期
- ・ 遊びの楽しさを知らせる言葉掛け
 - ・ 幼児の興味関心が持続するような言葉掛け
 - ・ 共感していることを示す言葉掛け
 - ・ 対話が十分にできるよう、状況に応じて幼児の言葉を繰り返して言ったり、相手の気持ち

ちに気付かせるような言葉掛け

- 友達と一緒に目的をもって遊びを進める時期
- ・ 幼児同士の気付きをつないだり広げたりする言葉掛け
 - ・ 互いの考えを出し合いながら、遊びが進められるような言葉掛け
 - ・ 友達のよさを認め、協力し合って活動が進められるような言葉掛け

2 研究の内容及び方法

(1) 研究の内容

幼児の育ちを見ていくと、おおよそ次のように三つの時期に分けて考えられる。それぞれの時期にふさわしい手立てを講じることとした。

ア 自分の気持ちや考えを出したり、相手の思いと感情をぶつかり合わせたりする時期には、幼児のありのままの思いを受け止めたり、気持ちの切り替えができるような言葉掛けをしたり、相手の考えを伝えたりするなどの言葉掛けの工夫をすることで、自分の気持ちや考えを安心して言葉で表現したり、相手に分かるように伝えたりできるようにする。

イ 友達関係が安定し、思いを出し合いながら自分たちで遊びを進めるようにする時期には、幼児同士の対話が十分でき、遊びの楽しさを知らせる言葉掛けの工夫をすることで、相手の思いに気付き、友達と互いに気持ちや考えを表現することを楽しめるようにする。

ウ 友達と一緒に目的をもって遊びを進める時期には、幼児同士の気付きをつなぐ言葉掛けや目的意識をもたせる工夫をすることで、相手の思いに気付き、気持ちや考えを言葉で表現しながら目的に向かって遊びを進めることができるようにする。

(2) 研究の方法

- 対象 桐生市立北幼稚園 2年保育5歳児16名
(男児7名 女児9名)
- 実施期間 平成18年5月～12月
- 方法 教師の観察法を基に記録をとり、分析する。

II 実践

1 実践事例

枠内の分析については、○は教師がとらえた幼児の思い、*は教師の意図である。以下の事例についても同様である。

アにかかわる事例

事例1 6月14日「人のこと悪く言っちゃいけないんだよ。」(互いの気持ちが言い合える状況作り)

幼児と教師の言動	分析
<p>○A児・B児・J児が音楽に合わせ、それぞれ振りを考え踊り始める。</p> <p>○B児「先生、上手でしょう。」と、得意そうに言う。</p> <p>○教師「うん、みんな自分で考えたんだよね。音楽に合っているととてもいいね、楽しそうだよ。」と、幼児たちの踊りを認める言葉を掛ける。</p> <p>○B児「私のいいでしょう。先生、まねしてもいいよ。」と言う。</p> <p>○A児「私のをまねして。家で考えてきたんだよ。」と言う。</p> <p>○見ていたY児「Aちゃんのがうまいと思うよ。Bちゃんの変なの。」</p> <p>○それを聞いたB児「いけないんだ。人のこと悪く言っちゃいけないんだよ。私だって頑張っているんだから。」と大きな声で反論する。</p> <p>○Y児「ふん、おかしいよ。」B児「Yくん謝ってよね。」Y児「やだね。」</p> <p>○教師は、黙って聞く。</p> <p>○B児「先生、Yくん意地悪なんだよ。私のことおかしいって言うん。」と、教師に助けを求めてくる。</p> <p>○そこで、気持ちが高ぶっているB児とY児を部屋の端に場を移し、座って話をする。</p> <p>○B児「何かやると、下手とか太ってるって言うんだもん、やだよ。」</p> <p>○教師「そんなこと言われると、嫌だよ。先生だって言われたら悲しい気持ちになっちゃうな。」</p> <p>○Y児「Bちゃんだって、僕にいつも怒って言うんだよ。お返しだ。」</p> <p>○教師「そう、Yくんも、嫌なことがあったんだね。お互いに、自分のことを悪く言われたり、威張られたりするのが嫌な気持ちだったんだね。どうしようか。」</p> <p>○B児「言わないようにするといいと思う。」</p> <p>○Y児「いつもそうに言うけど、大きな声で威張るんだよ。」</p> <p>○B児「わかったよ、言わないよ。」と言う。</p> <p>○Y児「僕も下手って言わないよ。ごめんね。」</p>	<p>○B児は、教師に自分のことを認めてほしいと思う。</p> <p>○A児は、B児が自分のことをアピールするので、私だっとうまいのよ、という思いがある。</p> <p>○Y児は、わざと言って気を引きたいのではないか。</p> <p>○B児は、頑張っているのに何で否定するの、という思いがあるのではないか。</p> <p>*言い合うことで、互いの思いを出させたい。</p> <p>○B児は、教師に自分の気持ちを受け止めてもらいたいようだ。</p> <p>*場を変え、3人だけで話し合えるようにし、気持ちを落ち着かせたい。</p> <p>*B児の嫌だという気持ちに寄り添い、B児の気持ちを言語化する。</p> <p>*B児とY児が、今の状況を落ち着いて考えられるために、互いに嫌だという思いを整理して、幼児に返そう。Y児の行動や気持ちも言語化し、気持ちに寄り添おう。</p>

事例2 5月29日「弱いからやっちゃだめ。」(自分の気持ちを相手に伝える言葉掛け)

<p>○Y児「シャベルで穴を掘ってたら、BちゃんがSちゃん弱いからやっちゃだめって言ったんで、Sちゃんが泣いたんだ。」と、教師におとなしいS児の代弁をして訴えにくる。</p> <p>○B児「みんな私が意地悪言うのが悪いっていうんだよ。」</p> <p>○Y児「やっちゃだめって言ったよ。」</p> <p>○教師「Bちゃんはやっちゃだめって言ったけど意地悪は言ってないんだね。じゃどうしてやっちゃだめなの？」と、B児に聞く。</p> <p>○B児「私は強いシャベル(金)、Sちゃんは弱いシャベル(プラスチック)だからよく掘れないでしょう。だから使っちゃだめって言ったんだよ。」</p>	<p>○B児は、何で責められるの?という思いがある。</p> <p>*B児のことを受容しながら落ち着いた話し方をすることで、安心して自分の思いを言ってほしい。</p> <p>○B児は、誤解されていたことに気付いていないようだ。</p> <p>*B児の言い方を認めることで、B</p>
---	---

○教師「そうか、よく分かったよ。Bちゃん、今みたいに詳しく話すとみんなに分かると思うよ。」と、言う。

児は今後相手に思いが伝わるように話すだろう。

〈家庭との連携〉

母親は、B児の強い口調と落ち着かない態度を心配し、教師に時々園での様子を聞く。母親には、ひざの上へのセスキニップをとったり、絵本を読んだり、ゆっくり過ごす時間を作ることで、母親も小言を少なくすることなどが良いのではないかとアドバイスを。担任と情報交換することで、母親自身の気持ちが安定することにつながったと思われる。


〈考察〉

事例1は、互いに自分の嫌な気持ちを言い合えたことで、結果的に相手の思いに気が付くことができた。教師が聞き手になり互いの気持ちを言い合える状況作りをしたこと、幼児が自分の気持ちが分かってもらえたという安心感がもてるよう、幼児の発した言葉を繰り返したこと、などの言葉掛けが、幼児の気持ちが落ち着くことにつながり、自分の気持ちや考えを安心して言葉で表現したり、相手に分かるように伝えたりできるようになったと考える。

事例2は、言葉が足りなくて誤解をした事例である。教師は幼児がきちんと思いを伝えられるよう言葉を補ったり、安心して表現できるような落ち着いた話し方をしたり、自分の思いを伝えないと分からないことがあることに気付かせたりすることが必要であると考え。

イにかかわる事例

事例3 9月4日「グループの名前、決めようよ」（友達と互いに気持ちや考えを表現できるような言葉掛け）

幼児と教師の言動	分析
○教師「グループの名前考えてね。」と、話し合いの場を設ける。	* みんなで意見を出し合い、納得する名前を決めてほしい。
○Aグループは6人（A児、B児、R児、S児、C児、T児）が話し合う。「スティッチはどう？」「いいよ。」「私もいいよ。」黙っているR児に、A児が「みんないいって言うんだけど、いい？」と聞く。	
○R児「えー、やだ。」と言うと、幼児たちがそれぞれR児の思いを聞く。「どうして嫌なの？」「かわいくないよ。」「じゃ、何がいの？」「たまごっち。」「ええ、やだよたまごっちなんて。」	* 自分たちで話し合いを進め、それぞれの意見を聞くことができるようになってきている。
○B児「そんなこと言ったら、決まらないよ。」	○ S児は、みんなの中ではまだ恥ずかしくてなかなか自分の思いが言えないようだ。
○A児が「Sちゃん、さっきから黙ってるけど何の名前がいいの？」と聞くが、S児は黙っている。	* 幼児に任せるが、時々今の状況を確認することにより、幼児に話し合いの柱をはっきりさせる。
○教師は幼児が話し合う様子に耳を傾けていたが、しばらくして「名前はどうしたかな。」と、今の状況を確認する言葉掛けをする。	* あせらずじっくり話し合ってほしいので、時間を十分取る。
○A児「みんなスティッチがいいんだけど、Rちゃんが嫌だっていうから決まらないんだ。」	
○教師「ほとんどの子がスティッチがいいんだね。」と、幼児の言葉を繰り返す。「Rちゃんは、納得しないんだ。今日決まらなければ明日また話し合ってもいいんだよ。」と、言う。	
○翌日、再び話し合いをする。	* S児が思いを言えたので、話すことへの自信がもてるよう、言えたことを認めよう。
○教師はS児に「本当はどの名前がいいの？」とささやくように聞く。 S児「たまごっち。」と、小声で言う。 教師「そう、たまごっちがいいんだ。Sちゃんの気持ち分かったよ。」と、言えたことを認める。	○ R児は、悔しい思いなのだろう。
○A児「じゃあ、ジャンケンはどう？」と案を出し、3対3でジャンケンをする。R児は負けるが納得しない。	* R児が黙っているの、教師がジ
○A児「Rちゃん、負けたんだよ。それなのにどうしてジャンケンした	

<p>ん？」と言う。R児は黙っている。</p> <p>○教師「いろいろな考えが出てきたね。ジャンケンでスティッチが勝ったんだよね。」と、幼児の話合いに理解を示し、内容を分かりやすく幼児たちに返す。</p> <p>○しばらくしてR児はT児に「スティッチでいい。」と、自分から言う。</p> <p>○B児「Rちゃんがスティッチでいいって言ってくれてよかった。ありがとう。」と言う。</p> <p>○教師が「Bちゃんの優しい言葉、先生うれしいな。」とみんなの前で言う。</p>	<p>ジャンケンの結果を再確認する。</p> <p>* R児は、ジャンケンに負けたことが自分の思いをあきらめる要因になったと考える。自分の思いを友達の方に変えることで、気持ちが楽になったのではないかな。</p> <p>* B児の落ち着いた優しい気持ちを受け止め、周りの幼児に知らせることで、皆にも認めてほしい。</p>
---	---

〈家庭との連携〉 今回の活動について、保護者にクラス便りを通して幼児のそれぞれの思いや教師の援助、活動のねらいなどを知らせた。その結果、自分たちの思いを言い合い解決できるようになった幼児の成長に驚いたという声が聞かれた。

〈考察〉

今回のグループ決めで、自分の考えを友達に伝えるために、話合いを十分してほしいという教師の意図があった。R児は、友達に言われ意地を張ったのだと考えるが、友達の説得、そして友達の意見に従うことも大事であるということに気が付いたのだと思われる。時間を気にすることなく話合いができるようにしたこと、幼児たちと共感しながら聞いたこと、幼児が今、何のことで話合いをしているのか確認できるよう状況を整理したこと、などにより、友達と互いに気持ちや考えを表現できるようになり、6人での話合いが十分にできたと考える。

ウにかかわる事例

事例4 12月6日 「クリスマスパーティーをしようよ。」（幼児の遊びや気持ちをつなぐ言葉掛け）

幼児と教師の言動	分析
<p>○H児、A児、R児の3人が色紙で一つのクリスマスツリーを作る。</p> <p>H児「ねえ、みんなでこれ飾ってクリスマスパーティーしない？」</p> <p>A児、R児「いいよ。じゃあ、もっと飾りを作ろうよ。」と言い、飾りを作りながらどんなパーティーにしようか話し合う。</p> <p>○教師「楽しそうだね。先生もまぜてもらいたいな。」と、周りの幼児に聞こえるように大きな声で言う。A児「まざっていいよ。」</p> <p>○楽しそうな様子に、C児Y児も「まぜて。」と言う。</p> <p>○絵本を作り始めていたJ児、T児、M児、B児たちも交ざることにする。B児「何しようかな。」①教師「絵本をパーティーに使ったらどうかなあ。」と提案する。</p> <p>B児「そうだね。」と言ってクリスマスの絵本を作り始める。</p> <p>○クラス全員の幼児たちが交ざり、それぞれが友達とパーティーをイメージしながら準備をする。</p> <p>○Y児「9時30分からクリスマスパーティーが始まりますよ。」と、一人で時間を決め、はな組（4歳児）に宣伝を始める。</p> <p>○H児「ええ、まだだよ。だって、飾りができてないもん。」</p> <p>○②教師は、幼児たちを集めて話し合う場を作る。</p> <p>教師「友達と相談して、いろいろ準備して頑張ってるね。だけどどんなパーティーにしようか考えていることがいろいろだよ。Hちゃんたちは、どんなパーティーをしようと思ったの？」と聞く。</p> <p>H児「うん、飾りを作ってクリスマスらしくするでしょう。そして、ごちそう食べたり踊ったり楽しくしようと思ったんだよ。」</p>	<p>○3人は気が合い、楽しそうに目当てに向かって進めている。</p> <p>* みんながまざることを期待して、周りの幼児に聞こえるように言う。</p> <p>* 遊んでいた遊びが生かせるような言葉掛けをする。</p> <p>○Y児は、早くパーティーを始め、会を進行したいのかもしれない。</p> <p>* 遊びの内容が様々なので、話合いを通して理解させたい。</p> <p>○それぞれやりたい思いがある。友達の思いを聞いて、イメージがふ</p>

<p>Y児「うん、僕は、はな組を招待しようと思ったんだ。」</p> <p>J児「私は絵本読んでやるの。」M児「プレゼント作ったよ。」</p> <p>B児「ねえ、パーティーだから音楽に合わせて踊りしようよ。」</p> <p>教師「踊りたい人もいるんだね。Hちゃんたちどうする？」</p> <p>H児「うん、いろいろあって楽しそうでいいと思うよ。それじゃあ、10時30分に始めたらいんじゃない。」</p> <p>Y児「いいよ。」B児「楽しそう。」と、にこにこして言う。</p> <p>教師「みんなで飾り付けをしたら、踊りを踊ったり、ごちそう食べたり、プレゼントを配ったりしてパーティーをすれば良いんだね。」</p>	<p>くらんできたのではないかな。</p> <p>* 幼児のイメージの共有化を確認する。</p>
---	--

〈考察〉

幼児たちは、友達との結び付きが強くなり、相談しながら行う遊びが増えてきている。遊びがクラス全体に広がったことは、幼児たちのやってみたいという気持ちや、数日行っている絵本作りの遊びをつなぐことにより言葉掛け(①)であったと考える。また、途中で中断して(②)みんなで話し合わせたことで、パーティーの内容をはっきりイメージさせることができたと思う。そして内容が共有化できたことで、より充実したパーティーになっていったと考える。このように遊びを通して相手の思いに気付き、気持ちや考えを言葉で表現しながらより強くなった目的意識に向かって遊びを進めることができたと考える。幼児たちは、口調や表情が穏やかになる、相手のよさに気付く、周りの幼児に認められる、友達と相談しながら楽しく友達と遊ぶ、などの変化がみられるようになった。

〈おとなしく、友達との会話が少ないM児の事例〉

事例5 11月20日 「犬になりたいんだ。」

幼児と教師の言動	分析
<p>○教師「大きなかぶの劇をしようか。」と、クラス全員に呼びかけ、みんなで配役を相談しながら始める。</p> <p>○J児が「Mちゃん、一緒にネコになろうよ。」と、誘う。</p> <p>○M児「ううん。」と、首を振る。</p> <p>○J児「ねえ、お願い。一緒にしようよ。」と、M児に頼む。</p> <p>○教師「犬になりたい子？」と言うと、M児が自分から手をあげる。教師「MちゃんとTちゃんだけか。でも自分で手をあげられたんだね。」</p> <p>○劇が終わり、教師「Mちゃんの犬、元気にできてよかったよ。」と、M児の意志を認める。</p>	<p>○いつもと違い、J児に従わない。自分の思いがあるんだ。</p> <p>* 本当は、意志が強いのだろう。M児の頑張りを認め、満足感を味わわせよう。</p>

〈考察〉

友達の意見に従って遊びを進めてきたM児は、少しずつ自分の思いを通せるように変化してきた。仲良しのJ児の誘いにも乗らず、自分は犬をやりたいという思いを皆の前ではっきり示すことができた。様々な遊びを通して楽しさを感じてきたこと、教師とかかわることで甘えたり信頼感がもてるようになってきたこと、自分の思いを通して受け入れられるという安心感や自信がもてるようになってきたこと、などが要因であると思う。最近では、友達から「Mちゃんて、時々面白いことをぼそつと言うんだよね。」と言われ、周りの幼児の見方も変化してきた。M児は、表情が豊かになり、教師にふれあいを求めたり、教師や友達に心を開き少しずつ自分から話し掛けたりするようになった。

2 事例から明らかになった幼児の二つの傾向と教師のかかわりについて

相手の思いに気付き、自分の気持ちや考えを言葉で表現する幼児を育成するために実践を行って

きた。その結果、自分の思いばかり言い張る幼児と、自分の思いを言葉で表現できない幼児の二つの傾向があることが分かった。次にこの二つの幼児の傾向について考察することとした。

傾向別幼児に対する教師のかかわり

〈1〉自分の思いばかり言い張る幼児に対して

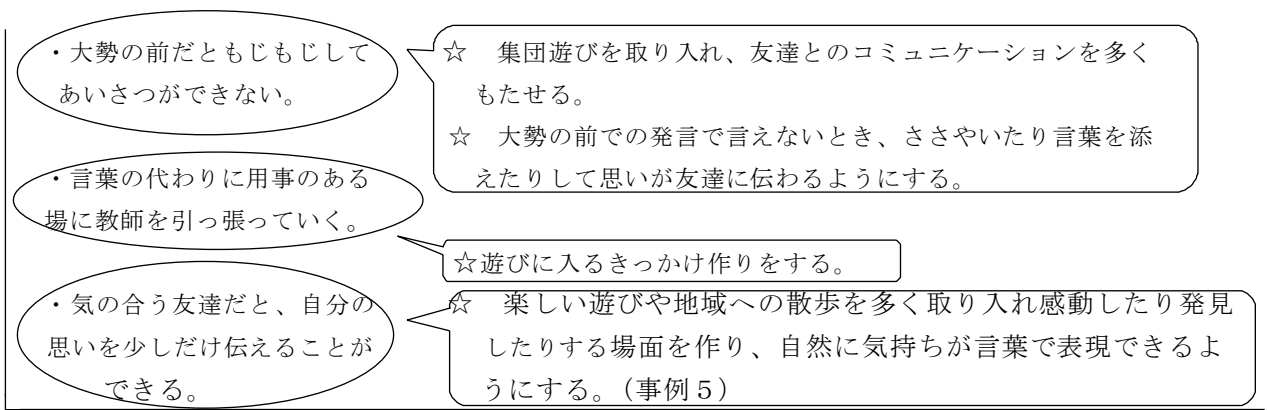
実態（内容と態度）	教師のかかわり
<ul style="list-style-type: none"> 大きな声を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 落ち着いてゆったりした言葉で対応したり、場を変えたりして幼児の気持ちの高ぶりを押さえる。（事例1） ・「意地悪は言ってないんだね。じゃ、どうして駄目なの？」（事例2）
<ul style="list-style-type: none"> 口調がきつい。 批判的な言葉が多い。 自分のことばかり話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 相手の気持ちに気付かせるようにする。 ・「言われた相手はどんな気持ちだったのかな？」 「〇ちゃんの言った言葉を聞いてどう思う？」（事例1）
<ul style="list-style-type: none"> 周囲の言葉を聞いていない。 自分のことばかり話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 友達に優しい言葉で言ったり態度で示したりしたことを、全体の前で具体的に知らせ、認められるようにする。 ・「〇ちゃんの優しい言葉、先生うれしいな。」（事例3）
<ul style="list-style-type: none"> 話を最後まで聞いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 話し合いの場を作り、相手の考えを聞いて受け入れられるようにする。 ・「〇ちゃんは納得しないんだ。今日決まらなければ明日また話し合ってもいいんだよ。」（事例3） ・「どんなパーティーにしようか。考えてることがいろいろだよね。〇ちゃんたちは、どんなパーティーにしようと思ったの？」（事例4）
<ul style="list-style-type: none"> 相手に言い返されると悔しくて泣く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 集団で相談しながら遊べるような場を作る。 ・幼児たちを集めて話し合いの場を作る。（事例4）
<ul style="list-style-type: none"> 相手に言い返されると悔しくて泣く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 幼児の行動や気持ちを言語化し、気持ちに寄り添うようにする。 ・「自分のことを悪く言われたり、威張られたりするのが嫌な気持ちだったんだね。」（事例1）

〈考察〉

自分の思いばかり言い張る幼児は、自分を表現したい、認めてもらいたいという思いが強い。教師は、幼児の悔しい、やりたい、うれしい、自分もできる、頑張ったよ、などの気持ちを受け止め、自分の本音が出せる状況を作ることが大事である。そこでこれらの思いを受け止め、幼児を認める言葉掛けに重点をおいた。その結果、幼児は相手の「思い」に気づき、分かるようになり、自分の言い方を工夫する、自分の考えを変える、自分との共通点を見いだす、相手のよいところを認める、など変化していくことが分かった。今後は、幼児の育ちとともに、集団で相談して遊べる場を作り、幼児が協力し合って活動が進められるような言葉掛けをすることで、相手の「思い」に気づき、幼児の複雑な思いまで言葉で表現できるようになっていくと考える。

〈2〉自分の思いを言葉で表現できない幼児に対して

実態（内容と態度）	教師のかかわり
<ul style="list-style-type: none"> 教師の言葉掛けに対して、笑顔を見せるだけで言葉はない。 うなずきが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 教師に心を開き、安心して過ごせるよう一緒にいる時間を多く作り、必要な場面で落ち着いて言葉を掛けるようにする。 ☆ 毎朝元気な声であいさつしたり、ふれあいをもったりする。 ☆ 戸外で体を動かして一緒に遊び、リラックスさせたり体力を発散させたりする。



〈考察〉

自分の思いを言葉で表現できない幼児は、恥ずかしいと思う傾向が強い。このような幼児は、表面には出さないが心の中に複雑な思いをため込んでいると考えられる。教師は、幼児が安心感をもって心を開けるような状況を作ることが大事である。そこで、幼児と一緒に行動し、リラックスさせたり、表情やつぶやきをとらえて気持ちに寄り添ったりする言葉掛けに重点をおいてきた。その結果、表情が豊かになり、何を言ってもいいという雰囲気を感じ取り、つぶやくことが増えたり、自分の気持ちを言葉で表現したり、手をあげて自己表現したりするなど、変化していくことが分かった。今後は、心を開いたまま話せるような状況を作ったり、幼児のつぶやきを受け止めたりすることで、だれに対しても安心して気持ちや考えを言葉で表現できるようになっていけると考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 幼児の育ちの過程をみると、必ずしも研究の手立て（2研究の内容及び方法）にあげた三つの時期の順に発達しているとは限らない。事例のB児のように、スパイラル的に行きつ戻りつしながら徐々に発達をしている場合がある。教師は幼児の変化に対応し、時には立ち戻って振り返りなど、柔軟な対応が必要であることが分かった。
- 幼児の姿を見ていくときに、幼児の落ち着いた状態の姿やどのような言葉掛けが必要なのかを事前に整理しておいた。実践を行ってきた結果、幼児の発する言葉を繰り返す、幼児の気持ちを受け止め言葉で表す、幼児の言葉が足りないとき、言葉を添えて相手に返す、集団で相談しながら遊べる場を作る、などの教師のかかわりを行うことにより、幼児は表情が穏やかになり、落ち着いて物事を考えられるようになった。
- 言葉に対して自分の保育を分析すると、幼児のとらえ方に、ある傾向があることが分かった。どちらの幼児に対しても、幼児の複雑な心の思いを教師が受け止め、それを表現する力を育てていくことの大事さが分かった。

- 幼児の育ちを見ていくうえで、家庭との連携は大事である。保護者との話、クラス便りを通しての遊びの様子や個々の姿・友達のかかわりなどを知らせることで、幼児の育ちを理解してもらうことができる。保護者からも幼児の心の動きを知らせてもらったり話し合ったりすることで、幼児の育ちを促すことができる。

2 課題

- 自分の思いや考えを言葉で表現する幼児について研究してきたが、今後はさらに相手の言葉や態度から気持ちを受け止め、思いやりをもつ幼児について、教師のかかわり方を工夫していきたい。
- 幼児の思考を言葉に表し、友達と遊びを作り上げていく協同での活動ができるようにしていくための環境の構成を工夫していきたい。

(担当指導主事 向井 道子)

Web検索キーワード

【幼児教育 言葉掛けの工夫 相手の思い言葉で表現】

〈参考文献〉

- ・『幼稚園教育要領』 文部省（平成11年6月）
- ・高杉 自子・柴崎 正行・戸田 雅美 編『保育内容「言葉」』ミネルヴァ書房（2005）

